令和の大鳥居　11月1日竣功予定　筆者撮影

戸隠神社
あをがき
青垣
令和２年［秋冬号］
戸隠神社発行
〒381-4101
長野県長野市戸隠3506
026-254-2001
http://togakushi-jinja.jp

令和二年 中社大鳥居建て替え

――絵葉書にみる中社大鳥居の風景――

林部　良子

令和二年春から中社大鳥居の建て替えがおこなわれました。

それにちなみ、今回は、過去の絵葉書から中社大鳥居やその周辺、いわゆる広庭の歴史を振り返りたいと思います。

絵葉書「戸隠山中社　旧本坊　久山家」筆者所蔵

＊　＊　＊

モノクロの絵葉書に写る大鳥居は神明鳥居という様式です。戸隠神社所蔵の鳥居関係の資料によりますと、「当神社中社境内御鳥居ハ去ル明治十四年ノ建築ニシテ腐朽頽破シタル上、大吹雪ノタメ昭和九年一月十九日倒壊シ」（ルビ筆者）と記されています。

大鳥居の周辺に目を向けてみます。西側の長い塀に囲われた場所は、戸隠山顕光寺の最後の別当で戸隠神社初代の宮司を務めた久山家の建物です。この奥に旧別当家の敷地が広がっています。

塀の右側に、茅葺き屋根の二階建てのような建物が見られます。通称〝御物見〟と呼ばれ、じつは床下が高い一階建てだったそうです。来客があった場合、最初の面談をする場所で、床下が高いので外から内は見えないという利点がありました。行事等を眺める場所でもあったそうで、内から外は見えるという構造です。

また、『古郷の人　中村六郎翁顕彰建碑記念』という本によりますと、柏原（現在の信濃町）産の鎌が、戸隠神

※あをがき（青垣）とは切り立った険しい山が垣根のように連なる様子。当社では祝詞の中で「青垣成す戸隠山の麓に鎮まり坐す戸隠神社」と用います。

“御物見”が写る写真　『古郷の人　中村六郎翁顕彰建碑記念』より転載

絵葉書「信州戸隠山中社境内」筆者所蔵

社社紋の鎌卍が書かれた包装紙に包まれ、販売されていた場でもあったそうです。

〝御物見〟は時期や経緯は不明ですが、久山家から、同じく中社地区の武井家へ曳家移築されました。武井家には、十三世紀初頭浄土真宗の祖・親鸞聖人が滞在したと伝えられ、親鸞聖人にゆかりがあります。武井家へ移された〝御物見〟では、現在も、親鸞聖人像と釈迦如来像（神仏習合時代の武井家の本尊）が祀られています。

神仏分離により、仏教に関するものは、壊されたり、よそへ移されたりといったことが起こりましたが、武井家は親鸞聖人のゆかりがある故、手放すことがなかったのでしょう。

武井家へ移された“御物見”筆者撮影

＊　＊　＊

大鳥居の話に戻りますと、明治十四年建立の大鳥居は昭和九年に倒壊した後、東京の稲垣建築事務所によって設計された、明神（みょうじん）鳥居という様式で建てられました。戸隠神社と建築事務所の稲垣英夫氏との間で何度もやりとりされた書簡・設計図・図面や、鳥居建築工事にかかる材料や職人の記録などが、戸隠神社に保管されていました。また、本年、昭和の大鳥居が解体された際、貫の部分に墨書「中社寶前御鳥居　昭和十一年九月八日再建」があることがわかりました。

昭和の大鳥居の貫に書かれた墨書

＊　＊　＊

画家である横井弘三氏が描いた昭和の大鳥居が絵葉書で残されています。大鳥居とそれを囲む三本杉が、秋の夕暮れの中、柔らかな色あいで表され、とても懐かしい感じがします。

令和の大鳥居は、本年十一月一日に竣功となります。この鳥居は、これからどのような歴史と風景を見守っていくのでしょうか。

絵葉書「戸隠山（秋の中社）横井弘三筆」筆者所蔵

はやしべ　りょうこ氏
プロフィール

1979年、新潟県出身。新潟大学大学院人文科学研究科修士課程修了。長岡市で古文書の仕事に従事。戸隠に魅了され移住。江戸期と戸隠の古文書の発掘をライフワークとしている。

「あをがき」バックナンバーは当神社ホームページからも閲覧が可能です。